

日ラグ協発第14-102号
平成26年 5月29 日

関東ラグビーフットボール協会
会長 貴島 健治 様
関西ラグビーフットボール協会
会長 坂田 好弘 様
九州ラグビーフットボール協会
会長 徳田 昇 様

(公財) 日本ラグビーフットボール協会
専務理事 矢部 達二



「競技規則第 12 条」についてのルーリング 2014-1 (競技規則の確認)
(通達)

拝啓、平素は日本ラグビーの普及発展につきまして多大なるご尽力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、競技規則につきまして、IRB よりこのほど、下記の通りルーリングに関する通達が出されました。

日本協会でもこれを受け、ここに通知いたします。

貴協会におかれましても加盟都道府県協会、および、各チームに周知徹底いただけますようお願い申し上げます。

敬具

記

南アフリカ協会からの競技規則第 12 条に関するルーリング要請

競技規則第 12 条の定義には、「ノックオンとは、プレーヤーがボールを落としボールが前方へ進む、または、プレーヤーが手または腕でボールを前方へたたき、または、ボールがプレーヤーの手または腕にあたってボールが前方へ進み、そのプレーヤーがそのボールを捕りなおす前にボールが地面または他のプレーヤーに触れることをいう。」と記されている。この競技規則の条文では、ボールキャリアーがしっかりと握っている手からふり落とされてしまった場合のことについて明示されていない。

南アフリカ協会は、この回答は 2011 年のルーリング 4 から得られるものとする。

こういったプレーは、「タックル」があまりプレーされなくなり、代わりに、ボールキャリアーの手からボールをはたき落とす、あるいは、たたき起こすプレーの方が多くなり、いずれゲームに影響を及ぼしかねない懸念がある。

しかし、世界のレフリーによる判断の明確性と一貫性を得るため、以下の場合にはノックオンとなるのか、明確化を求めたい。

1. 赤チームのボールキャリアーが、青チームのゴールラインの方へボールを持って走り、青チームのディフェンダー/タックラーが後方からタックルしてボールと一緒にコンタクトした。この行為により、ボールキャリアーからボールが「前へ」こぼれ落ちた。ボールに最後に触ったのは、ボールが前へ行く前に触れたそのディフェンダーである。これは、赤チームのプレーヤーのノックオンになるのか、または、青チームのタックラーがボールをたたいて自分から見た後方へ落としたためプレー継続とみなすのか？ルーリング 2011-4 のボールを奪う行為と同様か？
2. 上記と同じ状況だが、ディフェンダー/タックラーがボールに触れていないがその行為によって青チームのボールキャリアーがボールを失い、そのボール前に移動した場合は？これがノックオンになるのかも、確認していただきたい。

ラグビー委員会の指定メンバーによるルーリング：

相手にタックルしているプレーヤーがボールに触れ、そのボールがボールキャリアーの手から前へ行った場合、それは(ボールキャリアーの)ノックオンである。

プレーヤーがボールを奪った、あるいは、相手の手から故意にボールをたたき落とし、そのボールがボールキャリアーの手から前へ行った場合、それは(ボールキャリアーの)ノックオンにはならない (そして、プレーは継続される)。

※ () 内は訳注。

以上